

D I F A R VO1.12

Desarrollo Integrado Familia Rural

発行責任 〒515-3421 三重県津市美杉町八知1383 瀧本 規久子

Tel/Fax 050-7000-2219, 090-1824-1834

E-mail somaya.takimoto@za.ztv.ne.jp

DIFAR とは、「農村を対象とした総合的な発展の為の支援」の西語訳 Desarrollo Integrado Familia Rural の頭文字の略で「ディファル」と呼びます。2003年に協力隊O

Bが発足し開発途上国であるボリビアの農村地域社会の人々が今日の家族の安心を得、明日の家族の希望が持てるような支援を願って活動が展開されています。



現地活動メンバーです。どうぞ よろしくお祈りします。

- 左上からネエル君（25歳）2児のパパ。DIFARスタッフ3年目。生ゴミプロジェクトには最初から関わっていて橋本さんの講習も受けました。トイレ建設担当。
- 上真ん中：山本裕起子（32歳）今年の日本人派遣者。スペイン語と格闘しながら生ゴミ堆肥作りの技術移転を行っています
- 上右：瀧本里子（33歳）DIFAR代表。2児のママ。子連れの活動をみんなに支えられてやっています。
- 左下：エルナン。ネエルの弟。（19）農業学生（夜学生）堆肥作りにハマっています。
- 左2番目：アラン。（20歳）農業学生（夜学生）11月から堆肥作りに入っています。
- 左3番目：アルフォンソ（24歳）市役所からDIFARに派遣。トイレモニタリング担当。
- 右：アナマリア（32歳）会計。コマラパコーディネーター。生ゴミ参加家族受益者フォロー担当。

あいさつ

新年 明けましておめでとうございます。

ここボリビア、サンタクルスは、夏の暑い暑い季節です。活動地があるコマラパ市はサンタクルスから250キロ離れていて標高も1800mの峡谷地帯なので日差しは射すように強いですが、陰に入ると涼しく夜も寝苦しい事は全くありません。

今年は12月はじめに大統領選挙があり、先住民出身のエボモラレス大統領が勝利し、続投になりました。南米の中でも先住民の比率が高いボリビアで、彼らの代表となる大統領の2期目。どんな国づくりが始まりますでしょうか。今年度もどうぞよろしくお祈りいたします。

活動報告



(写真左)「環境の日」に堆肥で出来た野菜を出店しました。地元で使われている有機堆肥と比べても質の面で劣らない堆肥ができています。

(写真右)月に一度 プロジェクト参加者とともに 堆肥づくり講習会を行っています。

2009年度の成果

- 4月～ 生ゴミリサイクルプロジェクトは参加家族450家族を目標に、トイレ建設プロジェクトは日本からの支援100基と現地市役所の50基で合計150基を目標にスタートしました。
- 6月 生ゴミ堆肥を使ったほ場での野菜試験栽培を開始しました。
- 8月 農家の人たちを対象に講習会を実施しました。
- 9月 トイレ建設を開始しました。
- 12月 生ごみプロジェクト参加家族数400家族。トイレ建設支援部分完成

2010年度の前定

- 2月 日本人派遣者2名帰国 28日に東京などで報告会
- 3月 活動報告書作成
- 4月 (未定) 2010年度活動開始
生ゴミリサイクル堆肥化プロジェクト1000家族目標
堆肥舎建設。日本人派遣者ボリビアへ出発
- 6月 生ゴミ堆肥を使った野菜試験栽培開始
- 12月 800家族達成
- 3月 プロジェクト終了 帰国

※まだ4月以降の前定は確実ではありません。来年度最後の前定の国際ボランティア貯金に申請していますが結果が1月末に出る前定です。

現在の状況報告

トイレ・・・今年は、国際ボランティア貯金から100基建設の支援を頂いています。実施期間は2009年4月から2010年3月末までです。昨年は雨や、物価の上昇、不足等で活動が大幅に遅れましたが今年はなるべく今年度中に建設を終了出切る様にスタッフ達も頑張っています。昨年に比べ対象地域はますます遠方へ、悪路を通っての悪条件になっています。12月現在支援部分のトイレは終了しましたが、今後トイレを完成させる為に各家族がどこまで目標を達成出来るかまた、バイクで村に通う毎日です。

生ゴミリサイクル堆肥化プロジェクト・・・2007年に始まりましたが現在まで参加家族は400家族。堆肥場もフルに活用しています。今年日本からの技術指導がメインで現場スタッフも若者を中心に技術の向上、安定化を目標にやっています。コマラパ市のゴミが以前に比べて20%減量しました。

ボリビアの街より ～南米の国、ボリビアの様子を紹介～

ドタバタ珍道中 ～ラ・パス、サンタクルス旅行～ 09年度派遣 山本 裕紀子



●現地メンバーでお迎えとごあいさつ

9月の末に、母と妹がボリビアまで遊びに来てくれたので、3人でラ・パスとサンタクルスを旅行しました。何しろ母にとっては初めての海外旅行。20時間以上の飛行機の移動に体調を崩していないだろうかなどと心配しながらサンタクルスの空港で待っていたら、二人とも意外と元気に到着したのは良かったのですが、早速トラブル発生。荷物がひとつ、届いていないとのこと。珍しいことではないのですが、ああ、さっそく・・・という感じです。

ラ・パスの空港へ降りる直前、アンデスの山々に囲まれた、すり鉢状の町並みに感心しながら、さすがに少し緊張しました。なんといっても、ここは世界最高所の空港。標高4082メートルに位置しており(富士山よりも高いです)、高山病にかかる可能性があるからです。急な坂道ばかりの町でしたが、そこまでは多少のしんどさはあるものの、3人とも元気に過ごしていました。少し離れたところにあるスーパーまでタクシーで行って、帰ってきたら母が体調を崩してしまい(道が悪いうえに運転が荒い)、夜はフォルクローレ(南米などの民族音楽)が楽しめる近くのレストランで食事をすることにしていたのですが、私と妹の二人だけで行って帰ってくると、いよいよしんどそうにぐったりとしているので、これはやはり高山病かもしれないなということで、ホテルのフロントに頼んで酸素ボンベとマスクを持ってきてもらい、酸素吸入。高山病に効くというコカ茶も飲んで、しばらくすると元気になってきたので、どうやらついに高山病発生です。

翌日は、ティティカカ湖やインカ文明以前というティワナクの遺跡などを観光しました。朝は元気な母でしたが、やはり不安だということで、ガイドさんをお願いして、車に酸素ボンベとマスクを積み込んで出発。ティワナク遺跡は、紀元前200年から紀元後1200年ごろまでという古い遺跡で、博物館と遺跡をガイドさんが熱心に丁寧に説明してくれました。その後はティティカカ湖に向かいましたが、ついたところには酸素ボンベの酸素がほとんどない状態・・・。1本しか持って来てないから大事に吸うように言っていたのですが、それどころではなかったようです。

ティティカカ湖では、しんどそうな母は、湖畔でお昼寝でもしておいてもらうことにして、妹と二人でボートに乗り込みました。

出発して10分くらいでしょうか、母を置いてきて正解だったと気づきました。湖とはいえ波が高く、しかも小さいボートなので揺られるというよりは、浮き上がって湖面に打ち付けられるのです。その衝撃といたら、もう・・・。連れてきていたら大変なことでした。

帰りはすっかり遅くなって、ぐったりした母はそのままベッドへ直行。寝るのではなく、まず酸素吸入。近くの薬局で高山病に効くという薬も買ってきました。

翌朝、明け方くらいからなんとなく息苦しくて、今頃私も高山病になったのか、などと思っていたら、胃のあ

たりがむかむかしてきて、いやな予感だと思っていたら、やはり予感的中。ひどい下痢です。しかも、赤い！！しかも、だんだん気持ち悪さが増していく。

この日は午前中の便でサンタクルスへ行くことになっていたのですが、すぐにフロントに電話してドクターを呼んでもらい、とりあえず処方箋を書いてもらって、またまたホテルのフロントに頼んで、薬を買いに行ってもらい、その頃には私もぐったりとしていたのですが、対応が早かったおかげで、空港へ行く頃には薬が効いてなんとか、動けるように。

母も、酸素吸入と高山病の薬を飲んで、ふらふらしながらも、なんとかサンタクルス行きの飛行機に乗り込みました。サンタクルスに着けば、美味しい酸素が、タダで(酸素ボンベは結構高いです)たくさん吸えるはず。もう少しの辛抱です。

サンタクルスについては、母はすっかり元気を取り戻し、私のお腹は治るまでには少し時間がかかりましたが(アメーバ赤痢でした)、観光するには問題ないくらい元気になり、DIFARのスタッフたちと食事をしたり、動物園に行ったり、残りの時間を楽しめました。

ボリビア到着時になかった荷物はサンタクルスに戻ってきたときには、手元に届きましたが、二人が日本に帰ったときにまた、荷物が届いてなかったとか。

最初から最後まで、ハプニング連続の珍道中。いろんな意味で楽しめました。

派遣を終えるにあたって (09年4月～10年2月まで)

山本 裕紀子

9月ごろから主に堆肥場に入り始め、私が来る以前の記録がなかったことと、現在の記録も抜け落ちが多く使い物にならないこと、そして現在の状況を把握する意味で、まずは毎日堆肥の温度測定をし、データ収集を行いました。

その中で、スタッフへの技術指導、技術者育成と、堆肥の質向上にあたって、堆肥作りプロセスの見直しの2点に重点を置いてやってきました。技術指導の点では、月に一度、技術会議を行い、その中で堆肥の切り返しなどの具体的な作業内容をテーマに取り上げ、現在の問題点や適切なやり方などを確認し、実際、堆肥場で仕事を進める時に、そのことが正確にやれるよう指導してきました。

堆肥作りプロセスの点では、堆肥場の広さや収集されるゴミの量から生ごみ収集から約3ヶ月で、仕上げるという目標をたて、それまでのプロセスの問題点を見直して、混合資材の内容や、投入時期、切り返しのタイミングや回数、水分量など質向上とコスト削減の両面から考え、少しずつ試験しながら、改善してきました。

現在はこのプロセスなどをなるべくマニュアル化し、誰がやっても間違いがなく、同質の堆肥が出来上がることを目標に、スタッフに指導しています。

報告会のお知らせ

「南米ボリビアの村の生ごみから堆肥作りの実践報告」

ボリビアではごみの選別は全く行われておらず、全て空いている土地に投棄されていきます。それが今まで継続されてきましたがゴミの増量や、投棄に伴う汚染なども問題になってきた事から他の市に先駆けて「生ゴミリサイクル堆肥化プロジェクト」を開始して2年目になります。

400家族が参加して毎週堆肥作りを行っている様子を現地に派遣されて日本人2名の生のレポートをお伝えします。「村にトイレが建った！」

私たち日本人はトイレで用を足すのが当たり前になっていますが、ボリビアの田舎ではトイレがある所の方が珍しいのです。ところが、伐採が進んだ村はもう用を足すのに隠れる木もない・・・子供たちは感染症で病気になる・・・色んな問題が起きています。

そこで4年前から建設を始めたトイレ建設。長年の習慣を変えるのは大変な事ですが、スタッフの根気強い訪問により徐々に変化が見られます。今年で500基に到達するトイレ建設の様子をお伝えします。

講演会名：「DIFAR 報告会」

講師： 瀧本里子(DIFAR 代表)

山本裕紀子(2009年度派遣技術者)

1. 平成22年2月28日(日)10:00-12:00

場所：ヤマギシズム東京案内所

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場2-19-7 タックイレブンビル4F

会費：200円

2. 平成22年3月上旬

場所：沖縄県石垣市(日時・場所は未確定)

3. 平成22年3月14日(日)14:00-15:30

場所：京都 Q-ONEビル3F

〒602-0000 京都市上京区榎木町西洞院西入ル

会費：200円

♥2009年度の報告会の様子です。

●あと 名古屋・愛知県豊川市・で 現在調整中です。決まり次第、HP などでお知らせいたします。

開催希望の方、是非ご連絡くださいね。

問合せ先：瀧本 規久子

090-1824-1834somaya.takimoto@za.ztv.ne.jp

missugy@docomo.ne.jp

DIFAR HP: <http://ken-san.sub.jp/bolivia/>

☆ご支援を募ります。

以下の方法で ご支援金を募っています。

よろしくをお願いします。

A 個人会員 ① 年会費 10000円

B 個人会員 ② 月会費 1000円

D 法人会員 年会費 1口 100,000円

E 協力会員 織物やもずくなどの購入による協力

●振込先 いずれも 口座名は「DIFAR」

1 ゆうちょ銀行 総合口座

口座番号：12220-25078951

2 振替口座 同封の振替用紙をお願いします

♥もずく生産者の大城ゆみさんからのメッセージです(写真中央が 大城ゆみさんです)



新年明けまして おめでとうございます。

DIFARともずくを 応援してくださってる皆さん、いつも本当にありがとうございます。

南の小さな島にも 世の中の激変は押し寄せ、経費は高騰、魚価の下落は加速し、温暖化の影響か、サンゴがなくなり、海がどんどん変わっています。そんな中でも、今年もようやく元気な天然モズクの若芽を確認、そして養殖網にも生き活きとした新芽が伸び始めています。

ありがとうね、私も頑張るねという気持ちになります。DIFAR

活動も根付き、新芽が伸び始めている今、皆さまの温かいご協力を心よりお待ちしております。今年天然と養殖のもずくの価格を分けました。また18kgでは少し多すぎる方のために 半分の9kgという設定も試してみます。

事務局より

●モズクの予約を受け付けます。

毎年 好評のモズクですが、去年まで 天然物も養殖物も 値段を同じにしていたのですが、天然物の手間を考え、今年は 少し値段を分けることにしました。

また 1kg などの小分けで送ってもらうと、送料でずいぶん高くなるので、できれば お友達や ご近所で分け合っただけであればと思います。

予定としては 天然物が 3月ごろから、養殖物が4月ごろからのお届けとなりますが、天候の都合で何とも言えないそうです。収穫量も 同じことです。

そこで 今年は 予約受付をすることにしました。

1年の予定 (たとえば 8月と10月に 1缶ずつ) のように ご注文をいただけたら、在庫がなくなりましたということが 多少は防げるかと思えます。

電話、メール、ファックスなどで お申込みください。

	天然モズク	単価 (kg あたり)	養殖モズク	単価 (kg あたり)
1斗缶 (18kg)	13,500円	750円	12,600円	700円
半缶 (9kg)	7,000円	約780円	6,500円	約730円

※18kgでも9kgでも送料が 殆どかわらないので 9kgのほうが割高になります。

※18kg入りはプラスチック容器です。9kg入りは 段ボール入りになります。(申込みは 瀧本まで)

メールは somaya.takimoto@za.ztv.ne.jp(パソコン)

♥京都竜安寺の蹲踞(つくばい)

missugy@docomo.ne.jp(携帯)

電話は 050-7000-2219 (自宅)

吾唯足知

090-1824-1834 (携帯)

(吾ただ足るを知る)



今年も モズクをいっぱい食べて

元気に 過ごしましょう!!!!

●報告会について

現在 準備中です。瀧本里子は 2月下旬に帰国。4月上旬にボリビア出発(予定)です。

その間に 一人でも多くの方と お会いできたらと思っています。

報告会がお近くで開催されるときには 是非 ご参加ください。

よろしくお願ひします。

●チョコボラのお願い

DIFARは まだまだ 小さな団体です。この通信を 身近な方に 見せて

活動を伝えていただけますか?